

宮代家履歴書・家系資料

【宮代 知直】

【皇室との御縁と地域社会への貢献】



宮代家家紋

『丸に片喰(刺繡・正式紋)』

【 序 文 】

宮代家は、古くより平塚市において名家として知られ、その歴史は平塚市郷土史および神奈川県郷土史にも正式に記録されております。

戦前・戦中の激動期には、皇室の御来訪を賜るほどの格式と信頼を築き上げ、地域社会の発展と文化の継承に深く寄与してまいりました。

十一代宮代甚七公の生誕は、黒船来航から七日後という歴史的背景を持ち、以降、十二代平蔵公、十三代三郎公と脈々と受け継がれてきた宮代家の精神は、「誠実」「責任」「仁義知信礼」の心に象徴されます。

本書は、宮代家十一代から十四代に至る歴史と系譜を後世に確実に伝えるべく編纂した正式な記録であり、家系の歩み、家訓、活動、家業、地域貢献を網羅した保存版として位置付けるものであります。

宮代家の血脈と精神を未来へと継承するため、ここに正式にまとめて後世へ託します。

宮代 知直

【 第1章 家系と家柄 】

宮代家は、古来より平塚の地に深く根ざし、地域社会の中で卓越した存在感を示してきた名家であります。

その歴史は平塚市郷土史、神奈川県郷土史にも正式に記録され、宮代家がこの地域において果たしてきた役割は、文化・経済・社会の各分野において極めて大きく、その名は「平塚御三家筆頭」として長く伝わっております。

戦前・戦中の時代には、皇室の御来訪を賜るなど、宮代家が持つ格式と信用は、まさに地域を代表する家系として揺るぎないものでございました。



また、宮代家代々の当主は、誠実さ・責任感・地域貢献の精神を継承し、家訓「仁義知信礼」を実践しながら、常に地域社会とともに歩み続けてまいりました。

本章では、宮代家の家柄とその精神的基盤がどのように形成されてきたかを明らかにし、宮代家の根幹をなす価値観と歴史的役割を記述いたします。

【 第2章 宮代知直 履歴書 】

宮代知直（みやしろ ともなお）は、平塚市において歴史ある宮代家第十四代当主として誕生し、その出生は宮代家における“宮様の間”での生誕という極めて特別な背景を持つ。

幼少より家訓「仁義知信礼」の精神を教えられ、質実剛健・誠実・責任感を重んじる人格を育み、その後の人生と活動の礎となっている。

大学教育においては、

アメリカ・カリフォルニア州の Pacific Western University（パシフィック・ウエスタン大学）にて学士号および修士号を取得。

帰国後は、国立筑波大学大学院に進み、高度な学術研究を重ね、博士号《博甲第六一四九号》を取得した。

これらの学歴は、国際的視野と専門的知識を兼ね備えた宮代知直氏の知性と研鑽の証であり、その後の社会貢献・国際交流・環境分野における活動の確固たる基盤となっている。



社会人としては、

- 環境保全
- 日本の防衛
- 国際交流

の三本柱を軸に幅広く活動し、国内外の友人・関係者との強い信頼関係を築いている。

また、企業・団体・地域社会において重要な役割を担い続けており、その誠実な姿勢は多くの人々から高く評価され、数々の賞状・感謝状として形に残されている。

本章では、宮代知直氏の歩みと人物像、そして宮代家を背負う存在としての精神性と使命感を正式な記録として整理し、記述するものである。

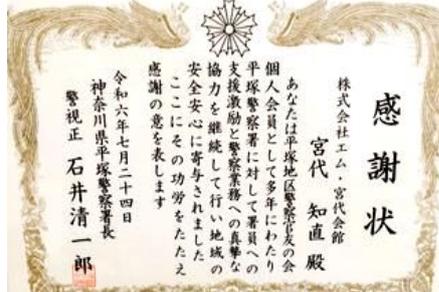
【 第3章 賞状・感謝状一覧 】

宮代知直氏は、長年にわたる社会貢献・地域奉仕・国際活動・環境分野での取り組みにおいて数々の感謝状・賞状・表彰を受けている。

以下に、正式な記録としてその一覧を記す。

- ・平成 21 年（2009 年）5 月 28 日神奈川県警察本部より感謝状
- ・平成 24 年（2012 年）3 月 23 日筑波大学大学院 修了 博士号《博甲第六一四九号》を取得
- ・平成 26 年（2014 年）6 月 15 日一般財団法人国づくり人づくり財団より感謝状
- ・平成 27 年（2015 年）11 月 3 日自衛隊 神奈川地方協力本部より 感謝状
- ・令和元年（2019 年）9 月文部科学省・環境省後援「志大賞」科学技術部門受賞
- ・令和 6 年（2024 年）7 月 24 日神奈川県 平塚警察署より 感謝状
- ・令和 7 年（2025 年）5 月 13 日神奈川県警察本部より 感謝状

これらの賞状・感謝状の一つひとつは、宮代知直氏が長年にわたり積み重ねてこられた誠実な社会貢献活動、地域への奉仕、そして揺るぎない責任感の証である。



【 第4章 宮代家 各代と系譜 】

■ 第十一代 宮代 甚七 (みやしろ じんしち)

嘉永六年 (1853 年) 生。

同年六月九日、ペリー提督が黒船で久里浜に上陸したまさに“七日後” に誕生した歴史的背景を持つ。幕末から明治への大転換期を生き抜き、宮代家中興の祖として位置づけられる人物である。勤勉・堅実を旨とし、家の基盤を再び強固に築いた功労者である。



■ 第十二代 宮代 平蔵 (みやしろ へいぞう)

明治 17 年 (1884 年) 生 ~ 昭和 28 年 (1953 年) 没。

十一代・宮代甚七の次男として生まれる。

先祖代々の砂利採取事業を拡大し、その卓越した経営能力により事業を大きく発展させた。昭和 4 年には「昭和砂利工業株式会社」を創立し社長に就任、平塚の基幹産業を支える要として地域経済に大きく寄与した。



3代議長 宮代平蔵
昭和12年12月～
15年5月。
のち8代・9代
(24・4～26・4)



第1回関東市会議長会
昭和10年(1935)5月13日午前10時から開会された、関東1府7県20市会議長会は、平塚市高等小学校講堂で学行された。会議は会則制定と提出2案件を審議した。

公職においては、神奈川県・県会議員、平塚市・市会議長、平塚市会議員などの要職を歴任し、地域行政と公共事業に深く関わった人物であった。

その誠実さと責任感は群を抜き、周囲からは「虎徹の如き切れ味」と評され、宮代家の名声を大きく高めた名士である。

■ 第十三代 宮代 三郎 (みやしろ さぶろう)

大正2年(1913年)3月22日生～平成9年(1997年)2月22日 午前5時55分没。

十二代平蔵の三男として生まれる。

昭和27年、当時の平塚市新宿(現:代官町9-26)に「株式会社宮代会館」を設立し、代表取締役となる。平塚駅南口徒歩一分という好立地にて、地域文化と産業発展の中心的役割を果たした。酒・煙草・博奕・女遊びを一切せず、誠実一筋の堅物として知られ、慈善家として多くの感謝状を受け取ることを喜びとした。また、伊勢神宮の評議委員を務めるなど、信仰心・奉仕精神の篤い人物であった。「平塚御三家筆頭」と呼ばれる宮代家の誇りを守りぬき、高潔な精神のまま人生を終えた。



■ 第十四代 (現当主) 宮代 知直 (みやしろ ともなお)

“宮様の間”にて出生。

家訓「仁義知信礼」を体現し、質実剛健・誠実・責任感に満ちた人格の持ち主。

アメリカ・カリフォルニア州 Pacific Western University にて学士号・修士号を取得。

帰国後、国立筑波大学大学院にて研究を深め、博士号《博甲第六一四九号》取得。



活動は

- 地球環境の改善
- 日本の防衛
- 国際交流

の三本柱を中心に、国内外で幅広い貢献を続けている。

「戒名は不要。生を受けたその名(宮代知直)こそ私の戒名である」との信念を持ち、先祖の精神を体現しつつ現代に継承している。

■ 第十五代はアメリカ カリフォルニア在住

【 第5章 宮代会館 】

宮代会館は、宮代家第十三代当主・宮代 三郎（みやしろ さぶろう）によって昭和27年（1952年）に創設された、宮代家のみならず平塚市における重要な文化拠点である。

当時の所在地は「平塚市新宿（しんしゅく）」であったが、現在の住所は平塚市 代官町9-26であり、平塚駅南口より徒歩一分という卓越した利便性を誇る立地に位置する。

宮代会館は、昭和から平成にかけて多くの地域行事・会合・文化活動の場として用いられ、地域の交流と文化発展を支える中心的存在であった。

第十三代三郎公は極めて誠実・質素な人物として知られ、酒・煙草・博奕・女遊びを一切せず、地域貢献と慈善活動に身を尽くした。その姿勢は宮代会館の運営にも色濃く現れ、多くの人々に信頼され親しまれた。

その精神は今日においても、「宮代家が地域と共に歩んできた証」として深く記憶され続けている。



【 奥 付 】

本書『宮代家 履歴書・家系資料』は、平塚御三家筆頭として知られる宮代家の歴史・系譜・家訓・活動・功績を後世に正しく伝えることを目的として編纂した正式な記録である。

記載内容は、宮代家第十四代当主・宮代 知直（みやしろ ともなお）より提供された史料、写真、証言、資料を基として忠実かつ正確に整理したものであり、宮代家の歴史的価値と精神的遺産を将来にわたって保存するための“永続的保存版”として位置づけられる。

編纂者 : 宮代 知直
家紋 : 丸に片喰（正式紋）
発行地 : 神奈川県平塚市
編纂年 : 令和七年十一月二十七日

本書が、未来の宮代家の子孫、並びに地域社会・文化史の研究者にとって貴重な参考資料となることを願い、ここに正式に記録として残す。

【参考資料】

皇室との関わり

宮代家は古くより皇室との関わりを持ち、昭和期においてもその交流の痕跡が確認される。昭和天皇の御代には、宮代家とゆかりの品や史料が残されており、郷土史の中でも皇室との縁故が語り継がれている。





竹田宮殿下御宿

宮代家重ねての光榮

將官候補陸軍大學の學生約四十名は馬匹八十頭と共に來月四日から一週間の豫定で平塚市及び中郡下の相模平野を中心に學生演習を行ふが、恰も同校二年生に御在座遊ばされる竹田宮恒徳大尉宮殿下も同校生徒として演習に御參加遊ばされ、前半戦平塚市を中心とする五、六、七三日間の演習には馬入宮代平藏氏宅へ御宿泊遊ばされる事になり、同家では遂に賀陽宮殿下の御

賀陽宮殿下 演習御參加

光榮の宮代氏

目下習志野騎兵聯隊に一將校として御勤務中にあらせられる賀陽中佐宮恒憲于殿下には來る廿二日から同聯隊の中郡下における演習に御參加遊ばされる爲め十二日並びに廿二日の兩夜、平塚市馬入二六七八前縣議宮代平藏氏宅に御宿舎を取らせられる事になり、此の旨速達があつたので同家では光榮に感激、奉迎の準備を進めてゐる

兩殿下も 御參加

陸大現地演習




陸軍大學の春季演習は來月中旬から四日から中旬にかけて厚木平塚方面を中心とする相模原に於いて現地戰術の演習が行はれる事に決定を見たが同演習には學生の御資格を以て竹田宮恒徳于殿下、李讓公殿下の御二方が御參加遊ばされる旨軍當局からの通知に接したので縣兵事課では御宿舎その他の準備に着手した「御寔眞は(右)竹田宮恒徳于殿下(左)李讓公殿下」

竹田宮殿下 三日御來平

平塚市奉迎陣

竹田大尉宮恒徳于殿下には來る四日から平塚、厚木方面を中心に、中郡相模平野で舉行される陸軍大學々生四十名の現地戰術演習に御參加遊ばされるため四日午前十時卅三分平塚驛着列車で御來平、馬入宮代平藏氏宅に四、五、六の三日間御滞在遊ばされる事になつたので

宮殿下御滞在の光榮に浴した地元では四日御來着の際驛頭に橋本平塚市長代理助役以下各名譽職員、各官公前代表らが御出迎へ申上げ市内各小學校では上級生が驛前廣場に堵列奉迎申上げる事になつた

宮代平藏氏

平塚町馬入二六七八



紫電一閃觸るれば人を斬り馬觸るれば馬を斬る夏

尙寒き銘刀虎
徹の如き切れ
味を有し縣下
の政治界に將
又實業界に縦
横無碍に快腕

を揮ふ偉材と言へば何人も宮代平藏氏を擧ぐるに躊躇せざるべし氏は宮代甚七氏の次男として明治十七年七月六日現住地に呱呱の聲を擧ぐ家は代々砂利採取を業とせるを以て氏も亦父祖の遺業を繼ぐと雖も機を觀るに敏なる鬼智と神算一度びならば猛然として之れを斷行するの勇氣は愈々良好の業績を收め得て進展又進展殆んど靜止する處を知らず爲めに昭和

四年十一月昭和砂利工業株式會社を創立し自から社長として之れに君臨し傍ら平塚町江陽銀行の取締役を兼ね縣下財界に確固不拔の勢力を占む氏は愛郷心に燃ゆる熱の人にして事苟くも郷黨の爲め町の爲めとし云へば勞資を吝まらず特に公共的施設に對して意を用ゐる處多く町會議員として從來捐出したる義舉少しとせず又馬入消防組頭として昭和四年三月迄勤續し其功績顯なるもあり爲めに縣警察部長より表彰さる之れ同町に於ける氏の徳望信賴勢力の遍き所以にして現に町相談役に推され民政縣支部にあつても幹事の要職に擧げられ黨務の樞機に參じて黨員間に重きを爲す現在縣會議員たる他赤十字社支部幹事の公職にあり同社特別社員として多年有功章佩用者たり夫人ちく子氏（四四歳）は名實共に氏の女房役たるに相應しき賢婦人にして長男甚三氏（明治大學在學中）三男三郎氏（藤澤中學在學中）四男勇氏（同上）の四兒も嚴父の血を享けて秀才を以て學友間に著はる。

市制5周年までの動き 昭和8年～12年(1933～37)



平塚市役所庁舎 昭和2年(1927) 鉄筋コンクリート造
2階建ての町役場を新築。7年に市役所庁舎となる。

◇ 新生都市の計画

県下の中核都市を目指し出発した平塚市は、商工都市として郊外住宅都市として「明るく住みよい平塚市」をモットーにして、将来計画を立案した。その主なものを挙げると、住宅地区設定に伴う下水網の完備、馬入川の改修と須賀漁港の修築、工場地帯の設定、急行列車の停車、省線電車の延長、官公庁の平塚移転、大山または桑野～平塚間の電車運行などである。



第1回関東市会議長会

昭和10年(1935)5月13日午前10時から開会された、関東1府7県20市会議長会は、平塚市高等小学校講堂で举行された。会議は会則制定と提出2案件を審議した。



2代市長 馬場義也
昭和8年8月～
10年8月。



2代議長 杉山昌夫
昭和11年5月～
12年12月。
のち4代・5代
(15・5～22・4)



3代議長 宮代平哉
昭和12年12月～
15年5月。
のち8代・9代
(24・4～26・4)

主なできごと

陸軍省告示
一 國有鐵道列車、
運轉ハ東海道線、
横濱驛迄トス
二 東京市内ハ自動
車運轉停止
昭聖年二月九日
平塚市役所

東京日新聞
今晩二時半遂に
帝都に戒嚴令布告
司令官は香椎中將
後藤首相代理に御説
全閣員の辭表を捧呈
帝都地方共に

平塚駅に掲示された告示
昭和11年2月26日に起きた陸軍の一部軍人による叛乱事件(2・26事件)は、市民を驚かせ一様に不安の念に襲われた。

復興祭と平塚競輪場 昭和25年（1950）

平塚復興祭



平塚駅前広場に建てられた祝賀塔

◇平塚復興祭

昭和25年7月5・6・7の3日間、平塚復興祭が行われた。終戦から5年間、耐乏生活を続けてきた被災市民に一応復興の目ぼしがついたので、一度楽しみを与えようというのが狙いだった。時期的にも農繁期も過ぎ7月のお盆前でもあったので、この三日間は人出で賑わった。見附台公園で、仮設演芸場における式典と演芸・サーカス・酒類販売組合の清酒サービス等。そのほか市内各地で催しものがあった。これが契機となり翌年から七夕祭が始まったのである。



平塚復興まつり式典参加者記念撮影

見附台公園入口で撮影。中央が地元選出の当時衆議院議員の河野謙三議員。



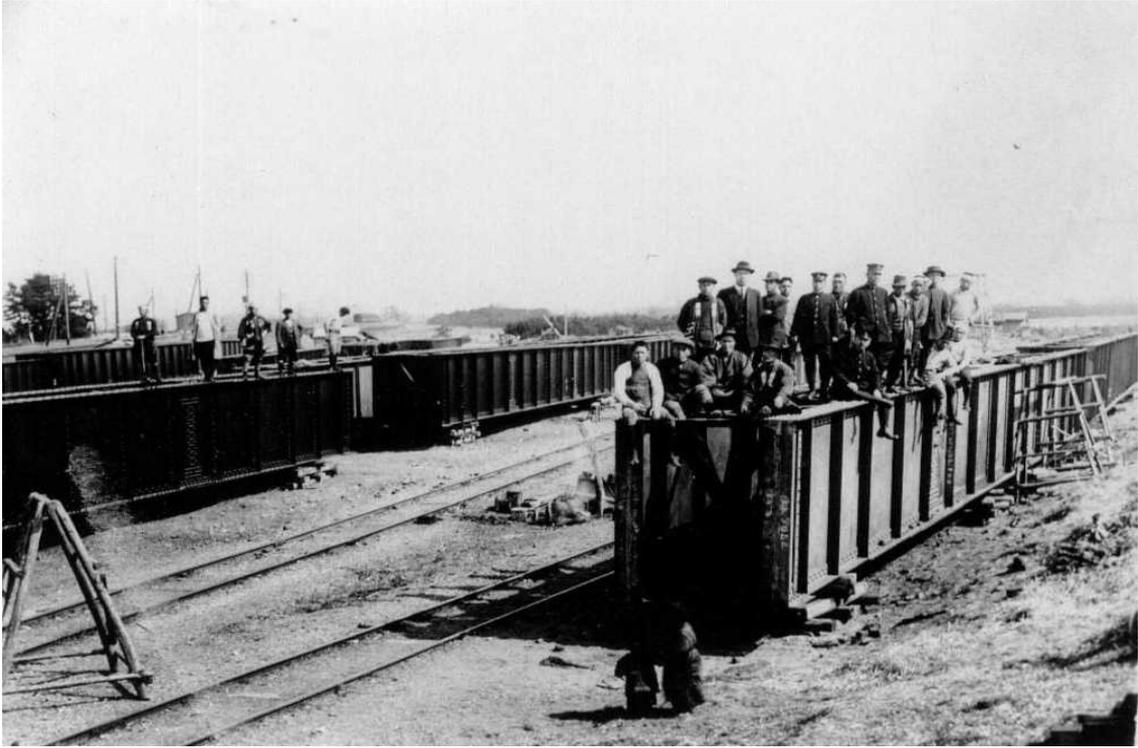
見附台公園広場会場風景

仮設の演芸場では、連日芸能人や地元有志による演芸が披露され、山車やパレードも繰り込んだ。



サーカスの大テント

見附台公園内で興行した曲馬王国際大サーカス団は、戦前平塚新宿・恵比寿の森広場で興行されたサーカスより大規模なもので、空中ブランコ・曲馬・象やライオンの曲芸は当時の少年少女の夢を大きく膨らました。



大正12年 中央の着物姿 創立者 宮代甚七



大正13年 国道1号線(東海道)馬入橋工事 宮代家が請負う



大正14年 仕事始め 中央モーニング姿 宮代平蔵
中央下 子供は13代目達



宮代ユキ
宮代ラク
宮代マツ
宮代平蔵
宮代勇

熊澤幸助
熊澤博



宅邸代官 入馬郡中州相



車關機動自搬運利砂代官 入馬郡中州相



場込鑽利砂代官 入馬郡中州相

